

2004 年度中国語学研修報告

渡 辺 武 秀*

A Report on Summer Chinese Study in Shenyang University of Technology in 2004

Takehide WATANABE*

Abstract

The third Summer Chinese Study Program for the students of Hachinohe Institute of Technology was held in Shenyang University of Technology, China.

Five students joined this program, making good progress in Chinese, and understood Chinese culture to some extent too.

Key words: Shenyang University of Technology, Chinese, Chinese culture

はじめに

本年度の中国語学研修は、八戸工業大学が中国で語学研修をはじめて、第三回目の研修である。研修先も前回、前々回と同様、遼寧省瀋陽市の瀋陽工業大学で実施した。

昨年は、思わぬ中国での「サーズ」騒ぎで、実施を見送ったこともあり、今回は一年ぶりの実施となった。参加学生は5名、期間は15日であった。宿舎は大学の招待所を使わせてもらった。二人一部屋だが、参加学生が5人だったので、一人だけ一部屋だった。

大学の施設、中国語教員などは前回、前々回と同じで、そのときの報告に紹介されているので、そちらを参照していただきたい^(註1)。

この小論では、はじめに今回の語学研修の概略を紹介し、その後に、今回の研修参加学生の報告を掲載し、そして最後に語学研修の総括をすることにする。なお、最後の頁に付録として、語学研修の写真を載せておく。

一 語学研修スケジュール

月/日	(午前)/(午後)
8/17(火)	八戸→苫小牧(フェリー)
8/18(水)	新千歳→瀋陽(飛行機)
8/19(木)	語学講座1/瀋陽テレビ塔
8/20(金)	語学講座2/市内見学(太原街)
8/21(土)	語学講座3/張氏帥府見学
8/22(日)	本溪水洞見学
8/23(月)	大学内見学/中国人学生との交流
8/24(火)	語学講座4/自由行動/京劇鑑賞
8/25(水)	語学講座5/北陵公園(ホントイジ)
8/26(木)	自由行動(瀋陽北駅)
8/27(金)	瀋陽故宮/市内見学(中央街)
8/28(土)	瀋陽⇄千山/千山風景地区
8/29(日)	9・18 歴史博物館/自由行動
8/30(月)	東陵公園(ヌルハチ)/語学講座6
8/31(火)	語学講座7/市内見学(太原街)
9/1(水)	瀋陽→新千歳(飛行機)
9/2(水)	苫小牧→八戸(日本フェリー)

平成16年12月17日受理

* 総合教育センター・助教授

二 研修が目指したところ

① 中国語学習をする

語学研修の第一の目的は中国語を勉強することにある。語学学習は1時間を3コマ、合計7回行った。中国での語学学習は、学んだ中国語をすぐ現場で使うことができるというところにメリットがある。

大学の教室での学習では、学習者に外国の言葉を実際に使うつもりで学習させることは、なかなか難しい。ところが、その国の言葉をその国で学習するのであれば、学習者も、そのハードルを容易に飛び越えてくれる。

また、外国に行き、その国の言葉を操ることができなければ、何も買えない、何もできないという場面に出会うこともある。これも、実は、語学研修では、ひとつの重要な体験であり、語学研修の大きな成果であると考えてもいいと思っている。というのは、この体験からも、言葉の威力のようなものを知ることができるからである。

② 歴史遺跡を見学する

瀋陽は、清朝発祥の地であるばかりでなく、民国時代には奉天事件、満州事変が起こった場所としても知られている。歴史的出来事があった現場に立つ。これ以上の歴史教育はないだろう。

この歴史に関わる見学は「張氏帥府」「瀋陽故宮」「北陵公園」「東陵公園」「9・18 歴史博物館」等の見学であった。

この歴史遺跡がどの時代のどの出来事に関係があるのか、以下、年代の古い順に少し説明を加えておきたい。

〔清朝〕——「瀋陽故宮」「北陵・東陵公園」

「東陵公園」が清朝初代皇帝の努爾哈赤（ヌルハチ）（1616～26）の墳墓であり、正式には「昭陵」という。「北陵公園」は第二代皇帝の皇太極（ホンタイジ）（1626～43）墳墓で、こちらは正式には「福陵」という。この二人の皇帝が政治を行い、かつ家族が住んでいた場所が「瀋陽故

宮」である。ちなみに、第三代目から北京に移り住むことになった。

〔民国〕——「張氏帥府」

「張氏帥府」は民国時代、中国の東北に力を持っていた奉天軍閥の実力者、張作霖と、その息子の張学良一族が住んだ広大な住居跡であり、すぐ近くに事務所、さらには、一族が経営した銀行の跡も残っている。ともかく強大な権力、財力に驚かされる。なお、この張作霖は、列車に乗って瀋陽に帰ってくるところを、関東軍に爆弾で列車ごと吹っ飛ばされ、重傷を負った。そして、この邸宅に運び込まれ、ここで息を引き取ったのである。歴史の教科書には、これが「奉天事件」として記載されている。また、張学良は「西安事件」でも有名である。

〔満州〕——「9・18 歴史博物館」

「9・18 歴史博物館」は満州における日本軍の行動、それに対する中国人の抵抗の記録を紹介するものである。そもそも「9・18」とはいうのは、1931年の「9・18」、つまり1931年9月18日であり、この日に柳条湖事件が起こり、これが満州事件の発端になったのである。これ以後、日本軍の武力行使は瞬く間に満州全土に広がって行くことになる。

博物館の入り口前の広場の隅に鐘が吊り下げられていた。その説明に、現在でも毎年9月18日の夜の10時、事件が起こったその日、その時刻、この鐘が鳴らされると書かれていた。

③ おいしい中国の料理を食べる

中国で美味しい料理を食べてくる。これも今回の研修の目的とした。そもそも中国に行ったら美味しい中国料理を食べてこなければ、中国に何をしに行ったのか分からないのである。

大学の招待所に食堂があり、毎日、朝、昼、晩と我々研修生のための食事を作ってもらった。この招待所の料理も豪華で美味しかったのだが、特別に、外で3回食事をすることをスケジュールに入れ、中国の関係者の方に店を探していただき、同時にそれぞれの店の予約を入れ

てもらっていた。その内容は以下の通りである。

8/23 朝鮮族の料理

8/25 普通の食堂の中国料理

8/27 餃子専門店「老辺」の餃子

このほかにもパーティーが3回、小旅行での食事が2回あって、パーティーでは豪華料理を、小旅行では田舎料理を食べることができた^(註2)。

また、招待所でもお願いして、昼食に餃子を2回、ジャージャン面を2回、チャーハンを1回作っていただいた。

さらに、一度だけ街の「日本ラーメン専門店」に行ってラーメンを食べた。

④ 京劇を観る

8/24 夜 京劇鑑賞

「京劇」とは中国の伝統劇である。孫悟空、三国演義などから題材を取った立ち回りを売り物にするもの、楊貴妃を題材にした色っぽいもの、或いは項羽と虞姬の愛情ものなど多くの演目がある。劇には台詞、歌、立ち回りが織り込まれている。

今回の京劇は「図蘭朵公主（トランド王女）」という題名のものだった。この劇は伝統的な手法の中に、現代的な劇作りの手法も取り入れ、若者にも歓迎されるものになっていた。物語は王子と公主（王女）のラブストーリーだったが、決してメルヘン的なものだけではなく、権力者の横暴、残虐といったものに対する風刺も効いていた。

⑤ 小旅行をする

小旅行は2回行った。以下がそのスケジュールである。

8/22 本溪水洞見学

8/28 千山登山

「本溪水洞」は鍾乳洞である。洞窟に水がたまっていて、見学は船に乗って行う。

「千山」は按山市の郊外にある山で、道教、仏教のお寺が混在してあるところとしても知られている^(註3)。

三 参加学生の報告

以下に今回の語学研修に参加した学生の報告を掲載しておく。今回の参加者全員がはじめての中国だったこともあり、それぞれの報告から、新鮮な驚き、とまどい、感動などが読み取れるのではないかな。

① 見たもの、体験したもの、学んだもの、食べたもの 1年 大島慎司

テレビの放送で日本と中国との友好について問題を取り上げていたのを見ました。日本と中国の対立が歴史上にあったので中国に行く前はとても不安でした。

最初、瀋陽工業大学に来た時は大学内の敷地の広さや人口の多さに驚きました。大学内や瀋陽の街の中で聞こえる数多くの中国語の意味が全く分かりませんでした。しかし、語学研修に参加したからには中国語や中国の文化や歴史を学んで少しでも中国に関する知識を身につけられるように努力しよう、楽しもうと思いました。中国での生活は初めてです。

語学講座は徐先生が教えてくれました。一日三時間の中国語の講座を七日間受けるので初めは長いように思いましたが、徐先生の教え方が上手だったので楽しく勉強することができました。市内見学の時は徐岩さんが案内してくれました。語学研修の十一日目に九・一八歴史博物館を見学した時は中国人の中に日本人を嫌う人がいる理由がよく分かりました。

中国で食べた料理はいつも豪華で珍しいものが多く、初め見た時は驚きました。語学研修の九日目の夜に食べた「老辺餃子館」での料理では二十種類もの本場の餃子に感動しました。五日目に「雪岳山焼城」で食べた朝鮮族料理や、七日目に「到家嘗飯店」で食べた中国料理もおいしかったです。

語学研修の五日目の瀋陽工業大学の学生との交流の時はとても緊張しました。覚えたばかりの中国語での自己紹介の文を何度も確認し、質

問事項を考えました。学生に失礼のないようにしようと思いました。実際、学生はとてもやさしく、僕達の質問にも快く答えてくれました。

語学研修の六日目の京劇は、出演する人は皆、顔に限取りをしており、劇の中で歌を歌う、立ち回り、チャンバラの要素が含まれていて見て楽しかったです。モンゴルの王子が中国の王女の弾く琵琶の音色に惚れ、中国の王女もモンゴルの王子に一目惚れし、二人は恋に落ちるのですが、もう一つの物語としてモンゴルの王様と中国の王女の乳母との恋の話もあり、とても素晴らしい内容でした。終幕にモンゴルの王子が中国の王女の婿に相応しいかどうか試す為に二人が槍で戦う場面に感動しました。

徐先生の語学講座は教え方が丁寧でとても分かりやすかったので多くの中国語の知識を身につけることができました。又、博物館や、公園で皇帝の墓を見学する時は徐岩さんの説明のおかげで中国の文化や歴史について学ぶことができました。最初に比べて、中国語に馴れ、発音が良くなり、気楽に話すことができるようになったので徐先生や徐岩さん、又、困った時に助けてくれた人達にはとても感謝しています。中国では驚きと感動の連続でした。今回、この中国の語学研修を受けて、とても良い経験をしました。

② 語学研修を通して 2年 柳田晃伸

日本人と特に大きな違いは無いが、聞こえて来るのは知らない言葉、次第に日本ではない国に来てしまったんだと思い始めました。まず中国に来て驚いたことは、道路が片側5車線とにかく広くそして危ないこと。車同士の間隙に半ば強引に割り込み、道路に引かれた白線をまたがりクラクションを鳴らして走る。片側5車線の道路を歩道も無い場所で普通に渡って行く人達、事故現場も何度か目撃しました。

次に中国料理、山盛りになった皿が大量に置かれ、見るだけでお腹一杯だが、旨いのでつい食べすぎてしまう。料理の種類も多くどれも見

たことの無い物ばかりでした。

中国の白酒は香りはとても良いが、度数が半端じゃなく高いため舐める程度であっさり挫折。代わりに中国のビールを飲んでみたところ、中国で飲むからなのか中国のビールだからなのか飲みやすく美味しかった。

語学講座は滞在中に計7回、教科書をやってその日に使いそうな言葉や中国語で知りたい言葉を質問しながら行われた。講座の時間以外は中国の文化や歴史的な建物の見学。瀋陽を見渡せるテレビ塔に行ったときに見た街並みはまるでドミノを並べたようで、建物が一つでも倒れれば全てが倒れてしまうと思わせるほど密集した街であった。700万人以上が生活している場所だけのことはある。

さらに郊外は、見渡す限り平坦な土地で山は遙か向こうに微かにうっすらと見えるだけだった。雨の降る中で千山にも登った。想像していたような山道を登るような登山ではなく山頂付近まで石段が続き、回りにはお寺が沢山あった。頂上付近は岩肌を少し削っただけの階段に手すりが有るだけで、雨で滑り大変危険だった。

他にも9・18の博物館、瀋陽故宮、中国の伝統的な劇なども見に行きました。

海外初で不安もあったが、とても楽しい体験と思い出ができました。

③ 語学研修を終えて 2年 佐々木幸平

今回の語学研修で一番感じたのは、中国人も日本人も変わらないという事だった。研修に行く前、サッカーの件で中国の日本大使館が被害にあったとTVで報道されたので心配だったが、中国の学生や先生は何とも思っていなかったらしい。研修の2週間、とても楽しく過ごす事が出来た。

瀋陽工業大学には日本語を話することができる先生が数人いた。私たちの授業を受けもってくれた徐先生も日本語が上手だった。日本語と中国語を使った授業はとても分かりやすく、本場の発音を学ぶ事ができた。大学で働いている服

務員さんは私たちと同年代だったので話しやすく、休み時間などは辞書とノートを持っていき中国語で会話した。

中国では二十四時間ずっと満腹で、やっと食事が終わったと思ったらすぐに次の食事が待っていた。朝から唐辛子とニンニクを使った料理が大量に出てきたのには驚いた。瀋陽は湿気が少ないので、ニンニクがそんなに匂わないのかもしれない。日本で朝からニンニクを食べれば大変な事になると思った。しかし、味付けが最高な為、全ておいしい。また、瀋陽の雪花ビールもおいしく、何杯でも飲めた。

中国の歴代皇帝の墓、鍾乳洞、テレビ塔なども見学した。9・18 歴史博物館では日本人の残酷さを知り、雨の千山に登り、渡辺先生が VCD を大量に買うなど、貴重な経験をしたと思う。

今回の研修を終えて、中国を前よりもずっと身近に感じる事が出来た。そしてまた是非行きたいと思った。

④ 中国語学研修報告書 2 年 岩澤 瑛

(8 月 18 日)、瀋陽に飛行機で到着した。到着後初対面で迎えてくれたのは、中国語の先生の徐さん、その他にも車の中には、これからお世話になる運転手さんと、付添い人（案内人）の徐さんがいて、我々を暖かく見守る形で瀋陽工業大学まで送っていただきました。

また、中国に初めて来て、信号機が役に立っていないという所に気づいた。信号機が赤なのに横断歩道を渡る人がいれば、車の方も道路を横切るといふ、僕が目から見ては不自然な光景が幾度も目を横切った。

(8 月 19 日)、瀋陽工業大学の宿舎での生活が始まった。宿舎ではいつも 7 時半に朝食でした。朝食の主食のお粥とマントウは、思った以上に美味しかった。その他の料理については、一品一品に唐辛子とニンニクの炒めたのが入っていて、特に香ばしく炒めてある唐辛子が気に入った。朝からこんなに豪華なものを食べられるとは思ってもしなかった。

昼食。胡瓜やインゲンなどを油と調味料で炒めたようなものから、豆腐の皮を千切りにして中国野菜を加えたようなものなど様々あった。日本では、なかなか口にすることができないくらい美味しい料理に感じた。特に僕は中国原産で香りの強いシャンツァイという野菜が大好きになった。さらに食事中に真っ赤な服を着た服務員の趙さんが注いでくれるジャスミン茶が最高に香り良くて美味しかった。

(8 月 24 日から 26 日にかけて) 僕は風邪を引いて朝、昼、晩の食事あまり摂れなく、またスケジュールから外れて部屋で寝込んでいた。また他の方も体調を崩した人がいたが、やはり中国は日本とは環境が異なっており空気が乾燥しているというような点と、気温がこの時期としてはとても高かったことから体調を崩したのだと考えた。

(8 月 27 日)、午後には鉄西百貨店で自分が中国に来て一番買いたかったウイスキーの子瓶を買えたので嬉しかった。あちこちのデパートでもスーパーでも、食材にしても、電化製品にしても極端に日本と異なったものは少なかったように感じた。むしろ食品においては日本にある食品（菓子）と全く同じなものなどがあって驚いた。晩には老辺餃子店に行った。外見も入った感じも立派に思える店で回転式テーブルに何種類もの餃子が入った蒸籠が沢山出される中、僕は餃子の一つ一つのあまりの美味しさに食べ過ぎてお腹をこわしてしまった。

(8 月 29 日)、午後、9・18 歴史博物館に行った。とてもインパクトがあった。日本軍国主義による中国侵略は中国人民に多大な損害とはかりしれない苦痛を与えたと書かれた文章が頭に残った。

(8 月 30 日)、風邪という体調不良のため午前の活動（語学、東陵公園行き）を取り止め、僕は部屋で、服務員から貰った薬を飲み休んでいた。夕方には薬が効いたせいか、体調が少し回復してきたので夕方から夜に予定していた劇を見に行くことができた。

(8月31日)、翌日には朝早くに宿舎を出発するので、少しでもと、サービスと門番をしている小父さんに日本語を教えた。このような積極的な行動をとったことで、多くの中国語と同時に様々な知識を学ぶことができた。初対面の時から研修最終日まで大変お世話になったということを中国語で言えて満足した。

中国に凄く興味を持ち生活にも大分慣れ、帰国するのは抵抗さえあった。今回の語学研修は忘れることができない思い出になった。

⑤ 中国語学研修感想文 4年 佐藤 翼
私がこの語学研修に参加しようと思ったのは、

○実際に中国の人が話している中国語を聞き、
覚えたい、

○自分の中国語が中国の人に伝わるか試みたい、

○中国にとって日本がどのような国なのか知りたい、

と思ったからです。

日本のマスメディアからは中国が日本に対して悪い印象を持っているように感じますが、渡辺先生が「中国の人たちは日本人に対して優しくしてくれる」と言っているのも気になっていました。

中国語語学研修は、8月17日の夜に出発し9月2日の朝に帰ってくるおよそ2週間の研修でした。

(19日)、瀋陽テレビ塔に行きました。高くとても眺めがよかったです。ただ、風が強すぎて大変でした。テレビ塔から見た瀋陽の景色は、周りに全くと言っていいほど山がなく、海もなく、思っていたより高いビルや団地が多く、自然が少ないように感じました。しかし近くにとっても大きな公園があり、そこだけ自然がたくさんありました。遠くのほうには平らなような少し丸みを帯びているかのような地平線があり、見ていて不思議な気分になりました。

(20日)、市内見学に行きました。人がたくさ

んいて賑やかでした。中国の人は、よく見ていると日本人と少し違うような気もしますが、結構日本人に似ています。流暢な日本語を話していれば日本人と間違えられるのではないかと思います。中国の物価については、日本ではよく「何でも安い」と思われがちですが、実際には電化製品や衣服などは高いようです。ですが食べ物は安いので、同じ金額でも日本に比べればたくさん食べることができます。

(23日)、中国の学生と交流しました。相手は日本語を勉強している学生で、中国語と日本語を使った会話でお互いの国の違いについていろいろ話しました。話の中で印象的だったのは、中国の学生は朝から晩まで勉強しているということです。とても驚きました。先生も「頭がおかしくなるのではないかと心配していたくらいです。中国の学生は勤勉な学生が多いことは知っていましたが、話を聞いていてよくわかりました。他にも中国の話や、中国の人から見た日本のイメージを聞くことができました。

(29日)、9・18 歴史博物館に行きました。ここには、昔日本軍が中国に攻め入り、残酷な大量虐殺をした記録が残されていました。日本軍が使っていた武器や道具、国旗なども展示されていましたが、実際に殺害された中国の人達の骨や、首を斬られて複数の頭が吊るされている写真なども展示されていました。今となっては日本にとってあまり知られたくない過去になっているのではないかと思います。日本ではあまり詳しく見たり聞いたり、調べたりする機会が少ないと思われそうですが、中国では隠すことなく詳しく知ることができました。昔の日本軍は、中国の人に重労働をさせたり、人体実験をしたりもしていたそうで、残酷なものばかりでした。それらを中国の人達と一緒に見るのは、正直言うと気まずさと恐怖さえありました。ですが、私がこの博物館を見た感じでは、中国側からは「昔日本人がこのようなことをしたから憎い」という憎しみではなく、「日本にこの事実を認めてほしい」という感じを受けました。もしこの事が

事実で、中国が「日本にこの事を認めてもらい、より良い友好関係を築きたい」と思っているのなら、日本もこれを認め、謝罪しなければ、今以上の中国との友好関係を築くことができないのではないかと思います。この博物館の最後の方には今問題となっている靖国神社参拝の事が展示されていましたが、博物館を見学してこの問題の重要性を深く感じるようになりました。今後も、中国と日本が仲良く協力できる社会になっていってほしいと強く思います。

これら以外にも、中国ではいろいろありました。道路交通には驚く事ばかりだったり、おいしい料理をたくさん食べたり、買い物で苦戦したり、迷子になったり、物が壊れたり…。宿舎のスタッフの方々と交流できて良かったです。悪戦苦闘しながらも一生懸命中国語で会話しました。中国語の発音を教わったり、簡単な日本語を教えたりもしました。一番中国語を考え、調べ、聞いたり喋ったりしたのは、この時だったかもしれません。とても楽しかったです。

語学研修に行って、本当にいろいろな事を経験してきました。サッカーのアジアカップの事で心配もされていましたが、先生が言っていたように中国の人達は本当に親切にしてくれました。中国の先生方や宿舎の方々にもとてもお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。中国と日本にはいろいろな違いがありますが、中国には日本には無い良さがあり、また日本には中国には無い良さがあることに気がしました。アメリカやヨーロッパだけでなく、中国に行ってみるのもいいと思います。

学校で外国語を学ぶ事も大事ですが、その外国語を使って会話できるようになるためには、やはり現地に行って聞いたり喋ったりする必要があると感じました。聞くだけでなく、相手に正確に通じるまで、調べながらも、喋る事が大事だと思います。また、現地に行く事で、私たち日本人がほとんどわかっていない生活文化を知る必要もあると思います。この中国語語学研修は、とても良い経験にもなり、とても良い

思い出にもなりました。

四 語学研修のまとめ

① アクシデントもあった

すべてがスケジュール通り、何の問題もなかったわけではない。もちろん小さなアクシデントはあった。例えば、遼寧省の歴史博物館見学を予定していたが、移転実施中で、新しいところも開いてなく、以前の博物館も閉鎖され、急に計画を変更せざるをえなかった。また、千山旅行の時は、それまで一度も雨が降ったことがなかったのに、この日だけ雨に見舞われ、一時は中止も考えた。或いは、帰国の際、空港の持ち物検査のところで係員に機内に酒瓶を持ち込めないと注意され、もう一度外に出て荷を作り直した。

ただ、この程度のアクシデントは、このような活動では、当然起こることである。これは、むしろいい経験だったと思う。

② 幸運な出来事もあった

逆に幸運な予定外の出来事もあった。今年瀋陽市が「清朝文化節」を作ったのである。これは瀋陽市が全市を挙げて取り組んでいる清朝の文化を保存しようという動きで、私たちが語学研修にいつている時期にあちこちで「清朝文化節」に関わるイベントが行われていたのである。このことはテレビでも盛んに放映されていたので、私も知っていた。

私たちがちょうど「東陵公園」見学を予定していた日の午前、「東陵公園」でイベントがあるという情報が伝えられた。もともと午後の見学予定を、午前の語学講座と入れ替え、我々は早速「東陵公園」に向かった。

このイベントは、第四代目の皇帝、康熙帝が北京から瀋陽へ、初代の皇帝であるヌルハチの墓参りにやってくるという設定で行われたものだった。開始の時刻になると、「康熙帝がやってきた」という拡声器と共に、康熙帝（を演じる

人)が「東陵公園」の入り口から、大勢の家臣団を引き連れて登場した。それから、皇帝が文官、武官の家臣団と共に、長い石畳の道を、墳墓に向かってゆっくり進んで行きはじめた。最大の見せ場は、ヌルハチが墳墓の前の建物に用意された祭壇で「三跪九叩」の礼をするところであった。このイベントは確かにリアルで、場所が場所であるが故に、不思議に感動した。なるほど、康熙帝も間違いなく人間だったのだとか、当時の皇帝は、このように墓参りをしたのかと、妙に納得させられた。

③ 反省点もある

少し研修内容を欲張りすぎたという気もしている。特に、中国料理では、美味しい料理が多すぎたかもしれない。毎日食べ過ぎ、後半には食べることに疲れたような印象も受けた。また、見学箇所ももう少し減らしても良かったかもしれない。今回の内容は、一ヶ月、或いは半年で行うぐらいの量だったのである。

④ 学生諸君のこと

やはり、予想した通り、中国では、中国語をいろんな場面でどうしても話さなければならぬ必要性が生まれた。話されていることが、何かなんだか分からないでは、切り抜けられないようなこともあることにも気づいたようだ。どの学生も、中国にいた、この期間は、中国語を猛烈に、そして必死に勉強していたことを証言しておきたい。

体調を崩した学生もいたが、研修中に回復し、大事には至らなかった。外国での生活は、気候も、食事も日本と違い、これだけでも身体はいくらかダメージを受けている。にもかかわらず、日本でと同じような不規則な生活、不摂生したのでは、身体が悲鳴を上げるのは当たり前なの

である。

おわりに

研修中に気を遣ったことがある。

ひとつは、お互いの意志が通じないことから来る「誤解」を生じさせないことだった。相手はそのつもりでないのに、言葉が分からない、文化が分からないばかりに、相手の行為や言動を悪意に取ってしまい、腹を立てたりすることもある。こんな悲しいことは起こってはならない。もうひとつは、なるべく日本の価値観を持ち込まないで、「何故そうなのか」と、できるだけ中国人の視線から理解しようとする態度を持ってもらうことだった。すぐ日本が優れているなど考える人がいる。ここからは何の中国理解も生まれはしないのである。

今回の語学研修も無事終了した。

今回の語学研修を支えてくれた日本、中国のすべての関係者、友人に感謝をしたい。今回の語学研修が、学生諸君の成長にいくらかでも役立ったのであれば、これに勝る幸せはない。(完)

(注)

- (1) これに関して◎「2001年度夏期語学研修(中国)報告 山本忠」(八戸工業大学紀要第21巻 pp. 373-379)◎「2002年度夏期語学研修(中国)報告 山本忠」(八戸工業大学紀要第22巻 pp. 199-205)がある。
- (2) なお、パーティーのうちの一回は、八戸工業大学に留学したことのある王海軍先生、付景順先生、張軍先生たちの主催で、私たちのために開いてくれたものである。付先生の奥さん、お子さんも参加していただいた。有り難くて、実に楽しかった。
- (3) (注1)の報告に詳細に紹介されている。

2004 年 中国語学研修写真集その 1



瀋陽工業大学正門前



瀋陽工業大学招待所前



中国語受講風景



瀋陽故宮



テレビ塔から見た瀋陽市内

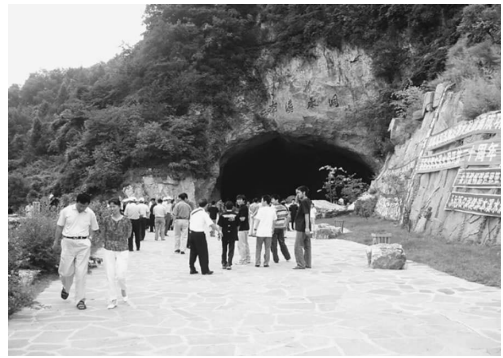


張氏帥府

2004年 中国語学研修写真集その2



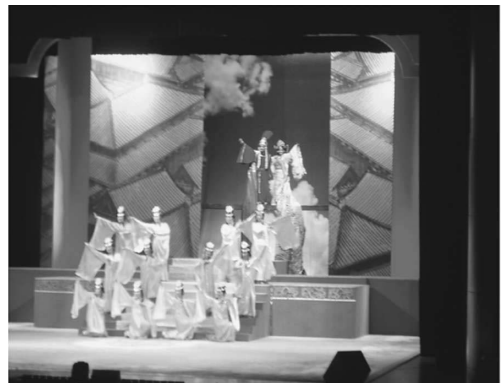
本溪水洞の外



本溪水洞入り口



北陵公園のホンタイジの墳墓



京劇のシーン



朝食



宴席料理